

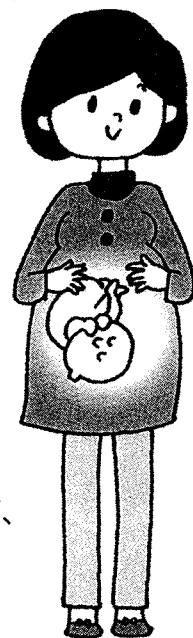
発達障害シリーズ②

子どもの脳を 化学物質から守る



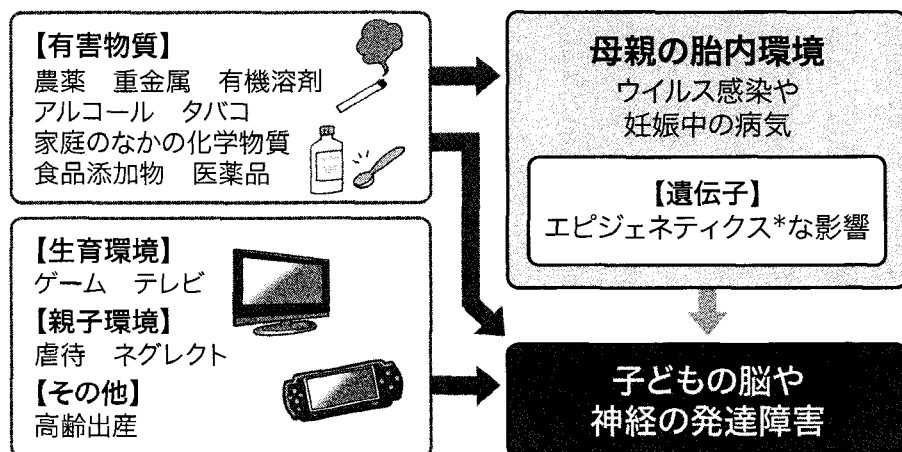
暮らしと食事のポイント

近年、発達に障害をもつ子どもたちが増え、家庭や保育所や学校などで、大きな問題になっています。原因は複雑ですが、環境に拡散している化学物質の影響が指摘されています。脳神経が形成される胎児期・乳幼児期に脳に侵入した化学物質が作用すると考えられています。昨年4月号では、「発達障害 食事療法からのアプローチ」を特集しましたが、今回は、身の周りに潜む化学物質から胎児や子どもたちの脳を守る食事や暮らし方を考えます。



図① 発達障害のさまざまな原因

有害物質は、子宮内で胎児の脳・神経発達に悪影響を与える



*有害物質の影響で、遺伝子発現のオン・オフに変化が起こると、一卵性双生児でも病気の発症リスクが変わる場合がある。
(水野玲子作成)

発達障害とは：自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠如多動性障害、その他これに類する脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの。

○特集担当：中嶋由美子、増子弘美、松永眞理子